



2026年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社ジェイエスエス
コード番号 6074 URL <https://www.jss-group.co.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤木 孝夫

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 濱治 雅弘

TEL 06-6449-6121

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	6,522	2.0	411	42.1	403	40.2	272	34.5
2025年3月期第3四半期	6,391		289		287		202	

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 278百万円 (36.1%) 2025年3月期第3四半期 204百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	67.73	
2025年3月期第3四半期	52.84	

(注) 当社は、2025年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	7,362	3,209	43.6
2025年3月期	7,520	3,011	40.0

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 3,209百万円 2025年3月期 3,011百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期		7.50		10.00	17.50
2026年3月期		10.00			
2026年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,192	9.7	556	120.8	546	115.8	355	84.8	91.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	4,026,056 株	2025年3月期	4,026,056 株
期末自己株式数	2026年3月期3Q	403 株	2025年3月期	403 株
期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	4,025,653 株	2025年3月期3Q	3,836,108 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結累計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用環境や所得環境の改善を背景に個人消費に回復の兆しが見られたものの、消費者マインドの慎重化や節約志向の強まり、さらに海外経済や貿易環境の変動リスク等もあり、景気の先行きは依然として不透明な状態で推移いたしました。

このような中、当社グループは「水を通じて健康づくりに貢献する」という経営理念のもと、より多くの人に心と体の元気を届けるべく、ベビーからシニアまで幅広い層の健康促進に取り組んでまいりました。

子供会員集客の施策では、新規会員獲得を目的とした、秋の短期教室および入会キャンペーンの他、事業所内のみならず全国の会員を対象とした紹介キャンペーン「つながろうJSS」や1日体験会を含めた間口を広げた集客の施策を実施する事により、当社の子供向け教育ノウハウの強みを活かした会員の獲得に努めてまいりました。

大人会員集客の施策では、国内特許を取得した自社開発の水中バイク「Jパドルバイク」に水中トランポリン、水中ウォーキングプログラムを合わせたオリジナルの水中運動プログラム「バイポリン&ウォーク」について、当社事業所にて展開するほか、他社施設への販売拡大にも努めてまいりました。

水泳授業受託では、全国的な学校プール施設の老朽化や指導者不足により水泳授業の民間委託が増加するなか、当社の培ってきた専門的な水泳指導のノウハウを活かした小中学校への水泳授業受託に積極的に取り組みました。

選手強化面では、2025年10月の第67回日本選手権(25m)水泳競技大会において、難波実夢選手(JSS東京)が200m自由形で3位、400m自由形で優勝、800m自由形で優勝、由良柁貴選手(JSS東京)が50m背泳ぎで優勝、100m背泳ぎで優勝、諏訪遥希選手(JSS東京)が200m背泳ぎで2位となりました。

また、同年11月の競泳ジャパンオープン2025(50m)において難波実夢選手が200m自由形で7位、由良柁貴選手が50m背泳ぎで4位、100m背泳ぎで6位、大蔵礼生選手(JSS)が50m平泳ぎで2位、100m平泳ぎで2位、諏訪遥希選手が200m背泳ぎで6位となりました。

日本テレビホールディングス株式会社との業務提携の状況につきましては、同社100%子会社である株式会社ティップネス(以下「ティップネス」と)との協業について、両社のノウハウ・経営資源を持ち寄ることで、両社の企業価値向上に資する効果的なシナジーをさらに強力に推進するため、以下の施策を進めてまいりました。

<ティップネスとの主な協業内容>

○「地域から水難事故を0(ゼロ)に!着衣泳体験会」の開催

2005年より安全水泳に取り組んでおります当社のノウハウを活かし当社とティップネス社2社共同開催の形で、不慮の事故から命を守る対処法を身につける「着衣水泳体験会」を2025年5月25日にJSSスイミングスクール立石(東京都葛飾区)で開催、6月15日にはJSSスイミングスクールおゆみ野(千葉県緑区)で開催しました。

○オンラインフィットネス配信サービス「トルチャ」の提供

ティップネスが持つオンラインフィットネス配信サービス「トルチャ」を当社会員およびその家族向けに提供し、顧客満足度向上とコロナ禍における施設に頼らない収益確保策の一つとしました。

○JSSキッズファミリープラン

両社が近隣に商圈を持つ事業所において当社子供会員の家族が割引価格でティップネスの事業所を利用出来る「JSSキッズファミリープラン」を設定し、顧客満足度向上につながるものとなりました。

○協業会議および分科会の定期開催

当社とティップネスとの情報交換の機会として、協業会議および各業務、テーマに沿ったより細分的な会議体としての分科会を実施しております。

○その他

商材や備品の共同購入によるコスト削減や人事採用の情報交換等、両社の強みとスケールメリットを活かした様々な分野におけるシナジー効果を生み出す取り組みを協議し、実施するとともに、更なる施策の準備を進めてまいりました。

このような営業施策の結果、会員動向につきましては、原材料価格の上昇やライフスタイルの多様化など、消費環境の変化を受けて、新たなニーズへの対応が求められる状況となっております。

こうした背景もあり、会員数は当初の想定よりもやや伸び悩んでおりますが、ニーズの変化を的確に捉えた施策を講じることで、さらなる改善を図ってまいります。

なお、当第3四半期連結会計期間末における当社グループの会員数は80,026人(前年同期比9.3%減)となりました。

売上においては、2025年6月の会費改定および2024年11月14日に公表しました「今後のM&A戦略強化」第一弾として実施した、株式会社ワカヤマアスレティックスの連結子会社化が寄与し、前年を上回る結果となりました。

費用面においても、将来への投資としてグループ全体の従業員の処遇改善に伴う人件費の増加、集客強化に伴う広告宣伝費の増加、連結子会社化に伴う子会社への設備投資やその他企業結合に係る費用の発生等により費用は増加したものの、前述の売上増により、利益は前年を上回る形となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は6,522百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益411百万円（前年同期比42.1%増）、経常利益403百万円（前年同期比40.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益272百万円（前年同期比34.5%増）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ158百万円減少し、7,362百万円となりました。これは主に、現金及び預金が48百万円減少、建物（純額）が59百万円減少、敷金及び保証金が29百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ356百万円減少し、4,153百万円となりました。これは主に、短期借入金が180百万円増加、長期借入金が682百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ198百万円増加し、3,209百万円となりました。これは主に、利益剰余金が192百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年5月14日に公表しました連結業績予想から修正を行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,067,040	1,018,461
受取手形、売掛金及び契約資産	109,410	127,931
商品	133,671	146,565
前払費用	111,512	111,628
その他	30,252	38,099
貸倒引当金	△1,577	△1,835
流動資産合計	1,450,310	1,440,851
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	3,009,723	2,950,722
土地	1,866,691	1,866,691
その他 (純額)	42,740	61,507
建設仮勘定	2,750	—
有形固定資産合計	4,921,905	4,878,921
無形固定資産		
のれん	25,578	22,932
その他	56,037	50,365
無形固定資産合計	81,616	73,297
投資その他の資産		
敷金及び保証金	740,228	710,287
その他	343,589	274,161
貸倒引当金	△16,850	△15,008
投資その他の資産合計	1,066,967	969,440
固定資産合計	6,070,488	5,921,659
資産合計	7,520,798	7,362,511
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	139,909	159,202
1年内返済予定の長期借入金	563,554	612,200
短期借入金	—	180,000
未払法人税等	15,622	87,816
未払消費税等	42,312	96,495
前受金	521,409	539,471
賞与引当金	100,995	1,086
その他	615,730	624,463
流動負債合計	1,999,532	2,300,736
固定負債		
長期借入金	1,911,736	1,229,374
退職給付に係る負債	53,764	44,966
資産除去債務	444,668	403,183
繰延税金負債	42,363	48,700
その他	57,597	126,288
固定負債合計	2,510,130	1,852,513
負債合計	4,509,662	4,153,249

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	330,729	330,729
資本剰余金	125,665	125,665
利益剰余金	2,597,530	2,789,679
自己株式	△45,569	△45,569
株主資本合計	3,008,355	3,200,504
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,781	8,756
その他の包括利益累計額合計	2,781	8,756
純資産合計	3,011,136	3,209,261
負債純資産合計	7,520,798	7,362,511

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	6,391,198	6,522,054
売上原価	5,331,560	5,351,649
売上総利益	1,059,638	1,170,404
販売費及び一般管理費	770,056	758,822
営業利益	289,581	411,581
営業外収益		
受取利息	730	794
貸倒引当金戻入額	1,957	1,570
受取保険金	2,942	—
電力販売収益	2,838	2,901
助成金収入	—	2,850
その他	10,334	3,442
営業外収益合計	18,804	11,559
営業外費用		
支払利息	10,910	14,666
関係会社負担金	7,264	—
その他	2,349	4,798
営業外費用合計	20,525	19,465
経常利益	287,860	403,675
特別損失		
固定資産除却損	501	462
特別損失合計	501	462
税金等調整前四半期純利益	287,359	403,213
法人税、住民税及び事業税	51,820	97,437
法人税等調整額	32,842	33,112
法人税等合計	84,662	130,550
四半期純利益	202,696	272,662
親会社株主に帰属する四半期純利益	202,696	272,662

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	202,696	272,662
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,083	5,975
その他の包括利益合計	2,083	5,975
四半期包括利益	204,779	278,638
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	204,779	278,638

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループはスイミングスクール運営事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	172,641千円	178,843千円
のれんの償却額	5,732千円	2,646千円